

2019年9月18日

## 2019年度取材インターンシップ 取材記録(チームL)

訪問先 前橋市役所 文化国際課様  
日時 2019年8月26日(月) 10時  
場所 前橋市役所 12階  
学生 共愛学園前橋国際大学  
国際コース2年 小林 友美 (チームL)  
心理・人間文化コース2年 大澤 千夏 (チームL)

### インタビュー記録

係長 大嶋 智之 様

#### 1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

前橋市の第七次総合計画から入り、文化国際課の仕事内容、イベント情報、などを前橋市のホームページから研究されたのだらうと感じました。プレゼンの画面が共愛カラーでまとめられていると感じましたし、内容も簡素にまとめられていて相手に伝えようとするものとしてよくできていたと思います。

#### 2. 「前橋四公祭」は前橋の魅力を発信する大切なイベントだと思います。

##### (ア) どういった人たちが参加して、協力していますか？

このイベントは市を内外にアピールするためにできたイベントで歴史はそんなにはないのですが、地域ごとに顕彰する組織がありそれぞれでも単独でイベントはしているのですが、年に一回集めてしています。市役所が取りまとめ役にはなっていますがお寺の住職さんや宮司さん、独自に研究所している方などが中心になっています。

#### 他にも活躍されている大名や家はありましたが、何故前橋四公なのですか。

もちろん縦の軸で行けばそれだけいっぱいありますが、みなさんにわかりやすくお伝えするといった観点で行けば、丁度江戸時代初期から江戸時代末期にかけて活躍した前橋藩主を務めた大名を扱うことによってそんなに詳しくない方もとっつきやすく関心を持ちやすいことを意識しています。

##### (イ) 文化国際課のみなさんのお仕事や役割はどのようなものでしょうか？

まず、実行委員会があり、広告面などの事務局な役割をしています。当日も文化国際課の職員が交通整理たり、円滑に進むよう裏でイベントを進めたりしています。

##### (ウ) 前橋四公祭の観客の増加など、イベントの効果について教えてください。

去年は前橋祭りと同開催をし、武者行列をしたことで視覚的にアピールできました。「お前はまだ群馬を知らない」のキャラクターを描いた人をお願いし、ポスターを作り色々アピールしている状況です。

##### イベントの効果は何を重視して把握されていますか。

イベント当日の参加状況や問い合わせなどです。上毛新聞で読者からの投稿があるのでそこをチェックして私たちの事業に関しての意見があるのでそれで振り返りをしています。

### 3. 前橋市民学芸員の養成について

#### (ア) 前橋学市民学芸員はどのように活躍をされているでしょうか？

この制度もまだ5,6年と新しいですが全体的に100人ぐらいいらっしゃいます。学ぶ方はそれだけでなく伝える役割も担ってもらっています。

市民学芸員になってから伝えるまでにどういったステップがありますか。

講座が終わったかたにイベント情報をお伝えし大丈夫な方に当日の役割を伝えてガイドしていただいています。強制にはできないので積極的にお願いしています。

#### (イ) 「前橋空襲の語り部」はどういった方々がどのような活動をされていますか？

市民学芸員はもちろんなのですが、街中でのイベントになるので比較的前橋に住んでいる方をお願いしています。

ご担当の業務について質問します。

### 4. 文化国際課として地域面で重視していること、国際面で重視していることを教えてください。

国際面で行くとCIRといって外国の方来ていただいているのでそういった方にいろいろな場面で通訳をしてもらうなどあるのですが、国際的な面は、国の制度に左右されるので前橋市が独自にインバウンドや在住外国人を増やすための政策はなかなか難しいです。前橋には日本語学校がたくさんあるので、結果として七千人という在住外国人がいらっしゃるのでもそういう方々が住みやすいように橋渡しの役割を担っています。前橋国際交流協会が委託を受けていろいろな事業を展開しているのでそういった事業がより効果的に展開できるように前橋市も協力しています。

地域面は、歴史的なイベントをメインに近年始まったイベントも多く、そういうのは外部要因があまりないので、しようと思えばいくらでも自由にでき、効果も表れてくると思いますが、市役所がするといふよりいろいろな団体があるのでそのサポートやできればその地域だけで今後行っていけるように支援をし、連携ができるようにという思いでしています。補助金という金銭的バックアップは必要ですが、それを受けて活用できる核となる人が必要かなと思います。

### 5. 前橋市のビジョンは「めぶく」ですが、めぶくに関して文化国際課はどのようなアプローチを行っていますか。

めぶくが民間の視点で書いてあり、めぶくとなる市民と文化活動する団体が手を取り合っている。また、めぶくが前橋市文化振興条例と重なる部分があるので文化振興条例に従い私たちは事業を展開しています。

### 6. 個人的な感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。

#### (ア) 仕事で失敗したとき落ち込んだとき、どう乗り越えてきましたか。

入社してから25,6年になるが、表に出る失敗というのはないのです。個人の失敗でも周りがサポートしあいます。出た失敗を次にどうつなげるかが大事です。次にどういう行動を起こしていくかを人は注目しています。そういう視点で物事を前向きにか考えてもらえればよいのではないかと思います。

市役所に入ってから長いとおっしゃっていましたが、どのような経歴を積んできましたか。

事務職で入りまして、今はないのですが初めは建築部で事務の仕事をして3年間していました。企画部の交通政策課に入って5年間、そのうち1年間は出向という形で県庁のほうに行きました。職員課に5年間教育委員会総務課に5年間で今、文化国際課で7年目を迎えています。役所はいろ

んな所属があり人によっては三年で移動する人もいれば私みたいに 5,6 年で移動する人もいます。

**前の部署での仕事が次につながることはありましたか。**

役所入ってすぐのころはそういったことはなかったです。ただ役所には共通のルールがあるのでする上での基盤みたいのはどの職場に行っても変わらないです。行っている仕事の内容としては大幅に変わってしまうので生かせないことのほうが多いです。20 年以上仕事をしているとずっと前にしたことが生かせることもあります。

**(イ) 学生時代にやっておけばよかったこと、やるべきことは何ですか。**

自分のために時間とお金を使えなくなるのでそれが分かっていたら自分のために使うのが良いと思います。いろんな経験をしてもらい、その経験を生きたものにして将来に生かしてもらえればなお良いと思います。

**大嶋さんは、実際に学生時代どういったことをされてきましたか。**

あまり勉強しなかったですね。バブルがまだはじけている頃だったのでいろんなアルバイトをしながら、公務員試験の勉強をしていました。

**学生時代から公務員を目指していたのですか。**

そうですね。公務員の勉強はしたのですが、大学の勉強はあまり真面目じゃなかったかな。でも、突拍子のないのが大好きで友達と前の日に決めて東北の 3 大祭りに行ってみたり、アメリカでレンタカーを借りて宿も取らずにぐるぐる回ってみたりしました。怖いもの知らずという面がありました。そういうほうが思い出しには残りますよね。

**公務員試験の勉強はどのくらいされましたか。**

大学 3 年生ぐらいに多くしていました。その前から公務員試験に生かされそうな授業を選んでいました。

**公務員を目指すきっかけはありましたか。**

父が県庁職員でエンジニアでした。家に仕事を持ち込まない主義だったのでそういう姿勢が好きで父に影響されて目指しました。

**公務員を目指すとしたら、採用されやすい基準などはありますか。**

採用担当ではないので難しいのですが、前橋の人材育成というものがあって、前橋の職員としてどういう職員が求められているかが信頼にこたえる、チャレンジする、活力あふれるという 3 つがあります。信頼にこたえるというのは、自分に与えられた任務を確実にこなすことでちょっと面倒という気持ちだと市民からの信頼にこたえられないので信頼が大事です。決められたところ以外にも自分が興味あるものに手を出していくとか人間関係の中で仕事が成り立つのでそういった面で活気あふれる職員を考えています。気持ちの上でそういうスタンスでいてもらえると面接などでこの 3 点を意識してもらえると良いと思います。

インターンに参加することも自分に合っているかどうかを考えられるのでおすすめです。

**前橋市役所に就職して一番よかったことは何ですか。**

その場その場の部署でやりがいをもって仕事をしているのでどことは言えないです。

現在進行形で仕事しているのでこれから経験するかもしれないですね。どんな仕事についても自分の中で前向きにとらえてもらえればよいと思えばいくらでもできます。すればするだけ自分の中でも充実しキャリアになり自分のノウハウが蓄積されます。他人にどう評価されるのではなく、自分がどう気持ちよく仕事ができるか蓄積された知識をどう生かすかを考えたほうがいいです。経験する中で様々な場面での判断材料が身につくと思います。何をしても無駄なことはないです。

**お仕事でのやりがいは何ですか。**

今は係長なので、部下の仕事をした達成感やそこから生まれる笑顔が見られるとやりがいを感じます。

**塩澤様**

**1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。**

比較のところの着眼点は面白いと思いました。高崎に多胡スタジオがあるので施設が目立つ一方、ソフト面がないわけではないので高崎市でいいなと思うものだと観光になってしまうのでどこまで比較できるかわからないですが高崎観光大使という事業をして市民に大使になってもらっています。そういうところも調べてみるといいなと思いました。逆に前橋も施設という面ではアーツ前橋や前橋文学館、市民文化会館もありますし、比較対象にはならないかもしれませんが前橋プラザ元気21もあります。全体的イメージは正しいのかもしれませんが、そうではない部分もどちらあるので調べてもらえればいいなと思います。

**四公祭、リビングガイド、市民学芸員、多文化共生の中でどれか関わっていらっしゃるものはありますか。**

主に国際関係の担当者は私しかいないので国際関係ですね。もちろん係長はいるのですが担当としては私しかいないです。基本的には国際がらみのことは自分が担当として仕事しています。

**2. 外国人のための前橋市リビングガイドを制作した経緯を教えてください。**

**(ア) どういった市民にどの程度の部数を配布しているのでしょうか？**

ネットのみの配信なので冊子での配布はしていません。昔は作っていた時期はあるのですがかなり前になります。インターネット上で見ていただく形です。

**なぜインターネット上に移行したのですか。**

広くいろんな方に見ていただくためと予算の関係もあります。

**(イ) 外国のみなさんから、どのような問い合わせがありますか？**

リビングガイドが直接ではないですが、外国人相談窓口を設置していて大部分は相談窓口でしています。

**相談窓口の対応はどういった方がされていますか。**

実はリビングガイドもそうなのですが前橋市役所から前橋市国際交流協会に業務を委託して教会のほうに業務を委託しています。協会からお願いされた方が業務を行っています。大体は外国の方が業務に当たっています。相談内容としては、日常生活に直結する税金の話や単純に翻訳通訳、日本語がわからない、住民登録、在留資格、病院、福祉に関することなどを質問受けています。年間500件ぐらいですね。

外国の方はこういった窓口があることの認識はどのくらいあるのですか。

人と人とのつながりの中で情報共有されているのが多いです。特にブラジル、ポルトガルの方はそういう情報をお互い交換しているので利用が多いです。いいアイデアがもらえれば宣伝活動していきたいですね。伝わっている国とそうでない国があると思います。

### 3. 国際交流・多文化共生に関するイベントについて

#### (ア) イベントに参加するにはどのようにしたら良いでしょうか？

国際交流協会と市内にあるNPO 法人の3社で協力しながら多文化の集いというのを行っていきます。去年から本格的に始めた事業です。FACEBOOKで調べてもらえればわかると思います。年に一回12月に国際交流パーティーを行っていて毎年少なくとも300人、多くて500人ぐらいいて、外国の方も3割ぐらい参加しています。これも企画運営しているのが国際交流教会で毎年募集しているのでよかったらぜひ参加してください。誰でも参加することは大丈夫ですし学生ボランティアという扱いでしたら問題ないと思います。

前橋市職員のお仕事について質問します。

#### 4. 前橋市の職員を志望した動機をお聞かせください。

元々国家公務員になろうと思っていたのですが、大学院の時に担当の教授から民間の会社で発展途上国を開発する会社を面白いからやってみないかとおすすめされて面白そうだなと思って入り2年間働いたのですが仕事忙しく残業徹夜大変でした。そんな中で親から地方の公務員試験があるから受けないかと言われて受けて受かったので3月31日まで働いて次の4月1日から前橋市役所に努めて16年です。出身が前橋なので地元に戻ってきたようなものです。

市役所に就職されてから16年ということでしたが、今までどのような仕事を担当されてきましたか。環境関係の仕事をして1年、住民関係の仕事をして2年間、3年目から県庁に派遣されて県庁で地方自治や過疎問題を研究してほしいというお話を受けて県庁で2年働きました。戻ってきたら市民税課を4年間、その後ぎわい商業課で4年間働きその時に奥山先生と出会ってやる気の木プロジェクトなどを担当しました。その後移動して文化国際課で4年目です。

移動には今までの経歴は関係あるのでしょうか。

人事は唐突というか分からない部分が多いです。でもなるべく行きたい方向の勉強をしておくほうがいいですね。移動は全然違うことをすぐにやらされるので、例えば市民税などで行ってすぐ処理しなければいけないので確定申告などは分かっていないと仕事ができないので行く前にも勉強したし行ってからも勉強しました。行けばその日からその担当なので、前任者に聞きやすい場合もあれば聞きにくい場合もあります。自分は聞きにくい状況におかれることが多かったですね。スペシャリストではなくても市役所の中ではその専門家なので資料や本で勉強することが大切です。大変ですけど嫌じゃなければその大変さが面白味かなと思います。色々なことを経験できるのが魅力の一つでもあります。

#### 5. 一日の仕事の流れを教えてください。

まず初めにメールをチェックします。急ぎの仕事や新しく来た業務がどのくらい時間がかかるのか判断する目的でメールをチェックしそのあとに比較的締め切りが近いものからしていくのが大体の流れです。

**6. 仕事と生活の両立はどのように行っていますか。**

子供が生まれる前までは仕事優先で両立とまでは考えず、仕事が切りついてから自分のことをしていたのですが、子供が生まれてからは奥さんに全部任せるわけにもいかないので家庭を大事にしなくてはという意識が生まれました。早めに帰って子供の顔を見て少しでも子供の面倒をみたいので、時間を意識するようになりました。時間内でいかに仕事をできるか考えて仕事をしています。

**7. 前橋市に就職する前後でのイメージの違いはありましたか。**

元々あまりイメージは持っていなかったです。イメージというより民間は民間で公務員は公務員で良さがあると思います。

**公務員の良さはどういう点だと考えますか。**

民間に比べれば残業がなく比較的早く帰れるところですかね。

**8. 学生時代に海外留学、サークル、ボランティアなどの経験があれば教えてください。**

大学2年の時に大学の研修旅行でタイに行きました。それがきっかけで海外関係の仕事をしたいと意識するようになりました。特に力を入れていたのはサークル活動で大学2年から大学院の2年までしたのですが環境教育のボランティアで小中学生を対処にした環境教育を考えるプログラムを2か月に一回企画して当日運営するというのを5年間していました。企画立案の力は身についたと思いますし、イベント当日の危機管理能力は今に活かされています。

**9. 最後に学生時代にやっておくべきことを教えてください。**

勉強以外に何かこれをやりましたというのを言えればよいと思います。自分の興味のある中で取り組み、頑張ったといえるものがあると良いのではないかと考えます。

今回の取材インターンシップを通して、私はたくさんのことを学ぶことができた。

まず私は、事前研修でインタビューのノウハウについて学んだ。私は、インタビューのノウハウについて学んだことがなく、この講義で初めて学んだ。話してから話題を引き出すノウハウは、簡単なようでとても難しく、自分のためになったと考えた。

また、社会に出るために必要な準備などを考えることによって、自分がこれまで何をしていたか、自分がこれから何をすべきかなど改めて考えることができる機会になった。そして、普段の講義では学べない、企業が採用基準で重視する項目など自分が就職活動する上で知りたかった情報を知ることができた。

さらに、取材インターンシップでは、取材先である前橋市役所・文化国際課についてよく調べ発表する機会があった。調査し、発表する機会があったことによって、前橋市役所について深く知ることができ、自分が市役所に就職面接を受ける際にも役に立つのではないかと考えた。

また、調査報告と実際の取材では、文化国際課の人たちにインタビューリストを使いながら実際にインタビューをした。大学生にとって、社会人にインタビューする機会はあまりなく、とても貴重な経験となった。そして、自分が就職に対して不安に思っていたことや社会人にインタビューをしたいことが聞けてとても良かった。また、取材する前と取材した後での公務員の仕事に対する自分の中のイメージが変わった。

さらに、実際にインタビューを行い、学んだことは二つある。一つ目は、前橋市市役所職員の人たちは、前橋市民の方のことを第一に考えて仕事を行っていることを知った。二つ目は、仕事上で失敗をしても周りがサポートしあい、失敗をしたあとにどう行動し前向きに考えるかが大事と聞いた。私は、バイトやグループ活動などでたまに失敗することがあるが、前向きに考えることの必要性を改めて知ることができたと考えた。

これらのことから、私はこの取材インターンシップでたくさんのことを学んだ。今回取材させていただいた大嶋様と塩澤様には、お忙しいところ取材させていただき、とても感謝している。この経験を生かして、あと2年半の大学生活が充実したものになるようにしていきたいと考えた。

取材インターンを通して社会人の方と比べて自分に足りないものが見えた。マナーが足りていないと感じた。お話しする中で相手が話していただいているのにさえぎってしまう場面もあったため会話を行う上でもっと気を付けるべきだと感じた。また、敬語等自分の話し方もおかしい部分があったので様々な人と会話をする中でこのような力を身に着けていきたい。公務員ということもあり部署が何年かごとに変わるため切り替えが大事とおっしゃっていた。また、失敗したときなどもこれからの行動次第で周りからの評価が決まるそう。そういった日々の考え方は普段の大学生活から参考にできると思うため、すべての物事に前向きに取り組むように意識を変えていきたい。

文化国際課は、歴史関係のイベントやアーツ前橋や前橋文学館などで精力的に市民に対して前橋の文化・歴史を伝えることを念頭に考えていると取材を行う前は、考えていた。大嶋係長のイベントなどは、しようと思えばいくらでもできるが、市役所が主体というより市民団体やそれぞれの地域が自立できるような支援を念頭に置いているという言葉が印象的だった。市役所は、市民第一に考え市民にとってわかりやすさを考えていることが分かった。また、様々な団体に業務委託などをしており仕事ではどんな業務においても多くの方が関わっているということを知ることができた。インターネット上だけでは職員の仕事までは分かりにくい前橋市役所のことを知ることができて良かった。

インタビューを行うのは、共愛 coco の活動で昨年地域の方にインタビューした以来であるが、その時の反省点が生かされなかった部分もあった。インタビューシートにとらわれて質問してしまった点が反省点である。元の準備資料にとらわれすぎず会話をうまくつなげることを意識すればより良いインタビューになったのではないかと考えた。また、インタビューが仕事の都合で一度席を外したことでもう一方の方に質問する時間が逆に想定よりできたが、うまく間を繋げられない瞬間もあった。臨機応変に対応する力を身に着ける必要があると感じた。

取材インターンで感じたことや反省点をこれからの大学生活において意識し、より充実したものとなるようにしていきたいと考える。

以上

## 2019年度取材インターンシップ 取材記録まとめ

訪問先 前橋市文化スポーツ観光部文化国際化課様

日時 2019年8月26日（月） 10時

場所 前橋市役所 12階

学生 共愛学園前橋国際大学 国際コース2年 チームM 富岡千晶・高田奈緒美

文化国際課 係長 大嶋智之 様

### 1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

発表した内容は正しく何も間違いがないので、よくまとめられていた。

パワポに共愛カラーを使用していて共愛をイメージしているのが垣間見られた。

### 2. 「前橋四公祭」は前橋の魅力を発信する大切なイベントだと思います。

#### (1) どういった人たちが参加して、協力していますか？

四公祭の目的は前橋の歴史を掘り起こして、それを市の内外にアピールして前橋市の魅力発信と共に産業（観光・商品開発）に結びつけ、経済の繁栄にできるようにしようと始めた。

前橋市各4地域に分かれていて、それぞれ専門的学習を受けた個人・宮士・自治会の関係の方などが集まって実行員会のような組織を作っている。

#### (2) 文化国際課のみなさんのお仕事や役割はどのようなものでしょうか？

四公祭のイベント時にはこれら民間団体が集まって運営しており、その取りまとめ役を市役所が行っている。

### 3. 外国人のための前橋市リビングガイドを制作した経緯を教えてください。

#### (1) どういった市民にどの程度の部数を配布しているのでしょうか？

実はリビングガイドは紙媒体ではなくインターネット上のもので、前橋市のホームページから、前橋市の外郭団体である前橋国際交流協会のリンクが貼られていてそこからアクセスできるもの。そのため、市役所ではアクセス数はわからない。

前橋市の歴史、観光情報、市民生活をする上で必要な手続きが簡単に書かれている。それを英語・ポルトガル語・スペイン語・中国語・ルビが振ってある日本語の5ヶ国語で書かれている。最近ではベトナム人が増えてきたので、ベトナム語を準備している。

#### (2) 外国のみなさんから、どのような問い合わせがありますか？

月曜午後・木曜午前の週2回相談窓口を開いており、昨年は477人が窓口に来た。

1. 税金（納税通知が自宅に届いてどう支払うか、猶予はどうか）
2. 翻訳・通訳

3. 住民票などの市民課の窓口の内容
4. 健康について
5. 福祉について

### **(3) 前橋市の多文化共生をどのように進めていますか？**

前橋市役所にはCIRと呼ばれる外国から来た職員がいる。今来ているのはアメリカテキサス州の黒人。通訳や市役所の英語が必要な業務に携わる

メインは前橋国際交流協会に補助・委託をして多文化共生事業を実施している。先ほどの相談窓口もその一環である。

その他には、日本語教室・交流事業を実施。

また、前橋国際交流協会にもイタリア人女性がおおり、イタリア語・英語に通訳してる。前橋市役所文化国際課と前橋国際交流協会が二人三脚で多文化共生を推進している。

## **4. 前橋市民学芸員の養成について**

### **(1) 前橋学市民学芸員はどのように活躍をされているのでしょうか？**

前橋の文化・歴史を売りにし、それをきっかけに前橋市民にも、市外民にも前橋を知ってもらうために作られた。

前橋市民学芸員は「自分の町を知ろう」制度化したものだが、ただ単に自分たちが知るだけでは学習の域で止まってしまうので、自分が学んだこと生かして、市外・県外の人たちに伝える役割を担ってもらっている。

講座を半年で10数回受けてもらい、受けてもらった地域活動に積極的に活動してもらうよう頼んでいる。今の所は7期までいる。

### **(2) 「前橋空襲の語り部」はどういった方々がどのような活動をされていますか？**

市役所は様々な手段で戦争体験、平和の尊さを知ってもらう事業をしており、前橋市では、8月15日に戦没者の慰霊するほか、8月5日に市役所のロビーを使って前橋空襲の話をしている。寺社や教会中心に人に集まってもらい、一斉に慰霊をする。町中にはたくさんの寺社や教会があるため、市役所だけでなく市民学芸員の方たちが、自分たちが学んだことを伝える役割を担っている。

また、市民ミュージカルで前橋空襲を知ってもらう機会も設けた。

## **5. 国際交流・多文化共生に関するイベントについて**

### **(1) イベントに参加するにはどのようにしたら良いのでしょうか？**

前橋国際交流協会のホームページにイベント情報が載っているのでそれを確認すると参加しやすい。広報前橋を見れば情報があるので、定期的に確認すれば参加できるきっかけがある。また、ボランティアも募集しているのでボランティアという視点からも参加できる

市役所が主催するイベントはほとんどなく、共催という形で行っている。  
例えば、7月にはJICAと共催して街中でカラオケ大会を実施した。

**(3) 学生がイベントを企画することはできるでしょうか？**

全くできないことはないと思われる。何かこうやったほうがいいことがあったら前橋市役所文化国際課に話してくれれば、面白いものであればできるかもしれない。

いきなり市役所は、、、と思うなら奥山先生に相談してみるといい。

例えば共愛学園前橋国際大学のオープンキャンパス時に留学生と何かするなど。大学周辺の小屋原町、駒形町の人たちとの交流。これは交流だけでなく多文化共生へのきっかけになるかもしれない。

ご担当の業務について質問します。

**6. 文化国際課として地域面で重視していること、国際面で重視していることを教えてください。**

国際面

前橋市に来る外国人は労働よりも勉強を目的としている人の方が多い。職業に役立てためのスキルアップをしようとしているため、日本語学校が多い。なので日本語学校などと連携をしながら事業を実施して行きたい。

また、前橋国際交流協会と連携をしながら外国人のニーズを把握して行きたい。

地域面

やればやるだけ効果が目に見えてわかるのでたくさんやりたいことがある。

まず、四公祭・市民学芸員と連携して事業を実施して行きたい。

そして、文化を振興するにあたって、市役所は市民や文化活動を行う事業者と手を取り合っていく。主体は行政ではなく、市民である。地域の人たちとバランスをとって、地域の人たちがやりやすい形で実施をして行きたい。

**7. 前橋市のビジョンは「めぶく」ですが、めぶくに関して文化国際課はどのようなアプローチを行っていますか。**

めぶくのビジョンが民間の視点で書いてあり、キーワードが民間共創である。めぶくという思想は、文化振興条例とクロスしているので、文化振興条例の精神にのっかって事業を展開いくことは芽吹くとマッチしている。

**8. 個人的な感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。**

**(1) 仕事で失敗したとき落ち込んだとき、どう乗り越えてきましたか。**

市役所は組織で仕事をしているため、個人の失敗や成功は表に出ない。  
ずっとその失敗に止まっていると進歩できない。周りの人は失敗したことを気にしておらず、むしろその後どう動くかを見ているので、そういう風に考えていけばいい。

**(2) 学生時代にやっておけばよかったこと、やるべきことは何ですか。**

社会人になると、自分のために時間とお金を費やすことができなくなる。  
今は自分のために投資していくべき。バーチャルではなくリアリティを追求できるようなことに費やすと自分の人生の選択でいい指針になる。迷った時に実体験とか成功例が導いてくれるので判断基準が確立されていく。

**(3) 仕事と生活の両立はどのように行なっていますか。**

1. 家族 2. 仕事 3. 遊び

生活のペースをしっかりとしないといい仕事ができない。ただし、緊急な時は仕事を優先することもある。教育委員会に勤めていた時、東日本大震災が起こり、給食で放射能の問題がありこもりつきりだった。

文化国際課文化国際係 副主幹 塩澤典茂 様

**1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。**

比較の着眼点が面白いという印象を受けた。しかし、高崎はお金がかかる施設をつくっているように感じるが、側面が無いというわけではない。市民であれば誰でもなることできる、高崎観光大使事業というものもある。前橋市にもアーツ前橋、前橋市民文化会館、前橋プラザ元気21などの施設があり、イベントや講座を開催している。それぞれソフト事業やハード事業があるのでよく知る必要がある。

前橋市職員のお仕事について質問します。

**6. 前橋市の職員を志望した動機をお聞かせください。**

もともと学生時代は国家公務員を目指していた。大学の教授のすすめもあり、発展途上国を開発する会社(海外開発)のコンサルタントの仕事に興味を持ち、2年間働く。当時、非常に忙しく徹夜もあり、激務だった。体調も優れず、母親のすすめで公務員試験を受験した。

**7. どのようなお仕事を担当されていますか？**

基本的には国際関係全般と文化関係を担当している。国際がメインで幅広くカバーしているが、その他に文化関係を担当している。国際関係で頻繁にあるのは海外とのメールのやりとりで週一回以上ある。姉妹都市のバーミングハム、ミシュランネットワークでフランスのクレルモン・フェランと連絡を取り合った。

実際に海外へ行くことはあるのか？

一昨年、友好都市のイタリア、ポンペイ都市へ行った。スローシティの加盟の手続き、10名の引率とタイムスケジュールの管理など、大変であったがよい経験になった。なかなか海外へ行くチャンスはない。

**8. 一日の仕事の流れを教えてください。**

出勤後、メールは必ずチェックする。締め切りが今日までということが希にある。急にやらなくてはいけない仕事、新たにどれくらいのボリュームの仕事がくるのか、期限を見つつ確認しなければならない。

その後、締め切りに近いものから業務する。特に締め切りを意識している。デスクワーク、たまにイベントがある。先日、前橋市民ミュージカルがあり、一日市民文化会館にいて手伝った。イベントの振り替え休日はあり。

9. お仕事のやりがい、工夫していること、目標についてお聞かせください。

- ・国際関係は一人でやっていて、とても大変である。しかし同時にやりがいもある。
- ・テレビ、新聞に出ることで大学時代の先生、家族に見てもらえることは嬉しい。
- ・大変ではあったが、海外へ行けたこと

一人で担当していて大変ですが、人が足りていないのでしょうか？

前橋国際交流協会があるため、市役所の担当は少ない。

個人的な感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。

10. 前橋市に就職して一番よかったこと、苦労したことは何でしょうか。

〈大変だったこと〉

まず「異動」がある点が大きいです。県庁で2年間研究をし、確定申告を扱う市民税課への異動があった。先輩から教えてもらえることもあるが、そうはいかないこともある。異動する前に勉強することをおすすめするが、異動した後も本を買って勉強することも必要になってくる。

次に「期限」である。税金関係で他の班、近くの人がミスしたことがある。そのミスをカバーしなければならなかった。

最後に「クレーム」である。税金、環境関係で対応することがある。

失敗したときにどのように乗り越えるか？

なるべく失敗しないようにする。ミスは誰にでもありますが、まずは失敗しないことが一番。

11. 仕事と生活の両立はどのように行っていますか。

自分が一人(独身)の時、子どもが生まれるまでは基本的に仕事優先だった。自分の合格点が出るまで、とにかくいいものをつくるために納得いくまで時間をかけてやっていた。子どもを考えた生活するようになり、両立するために期限、締め切りを意識している。優先順位をつけて、限られた時間の中で最大限のパフォーマンスをする。

自分の時間はありますか、またほしいと感じますか？

ほしい。

時間はないが、将校団などの課外活動も行っている。

12. 前橋市に就職する前後でのイメージの違いはありましたか。

もともとイメージは持っていなかったため、変化は無かった。民間は民間のよさ、公務員は公務員の良さがある。公務員になってから、民間のときに比べると残業は無く、早く帰る

ことができる。しかし、転職して給料は大幅に減った。反対に民間は出張は多く、大変だが出張があるのはよい点と言えるかもしれない

**13. 学生時代に海外留学、サークル、ボランティアなどの経験があれば教えてください。**

大学2年のときに大学の研修旅行で一週間から10日間ほどタイに行く研修があった。それまで海外へ行ったことはなかった。海外に対してあまり興味を持っていなかったが、これをきっかけに海外を意識し始めた。アメリカ、ネパール、ベトナムに友人と旅行へ行った。

大学2年から大学院2年まで5年間くらい環境教育のボランティアサークルをやっており、小中学生を対象に2ヶ月に1回イベントを自分たちで企画していた。

そういった経験は役立ったか？

企画立案とイベント当日の運営、安全管理、今も当時の意識はある。かなりの回数をやっていたため、町中のイベントで活きている。また、発案の際にも役立っている。

**14. 最後に学生時代にやっておくべきことを教えてください。**

楽器はできると良かったかもしれない。

様々な分野があると思うが、学生時代に何かこれやったというものが1つあればよい。課外活動、学内活動を通して経験することで就活のとき、役に立つ力になるかもしれない。

とっておいたほうがよい資格は？

行きたい方向に合わせてとるのがよい。

必要かもしれないと考え、大学3年から教員免許のために授業を取り始めた。

アルバイトは何をしていたか？

ガソリンスタンドや塾講師、家庭教師などをやっていた。

いまの仕事でアルバイトでの経験は活きているか？

直接的にはない。生活の中で役に立つことはある。

## 感想（富岡千晶）

以前から興味があった役場の業務について取材することができた。これまでの取材インタビューを通して学んだことや気づいたことを自分なりにまとめてみたい。

まず一つ目に、プレゼンテーション発表のために調査をする中で前橋市役所の果たしているさまざまな役割が見えてきた。ホームページのサイトを見ていると基本構想や推進計画などの他にもたくさんの情報があり、五分程度でまとめるのが非常に難しかった。そして、今回取材させていただいた文化国際課様の業務だけでも、文化国際係、文化振興課、アーツ前橋、前橋文学館など多岐に渡っていることを知った。

「高崎市と前橋市の文化の伝え方の比較」において、一概には言えないが「高崎市はハード事業が多く、前橋市はソフト事業が多いのではないか」という考察を発表した。しかし、塩澤様からご指摘いただいたように、高崎市にも前橋市にも両者は顕在していることを十分に理解していなければならなかった。一見すると高崎はハード、前橋はソフト、というように見えてしまうが、内部までしっかりと調べる必要があった。

私が興味を持った文化国際課の業務として「前橋リビングガイド」があった。外国人のためにくらしのガイドをホームページ上で提供しているサービスである。取材の中で、前橋市に在住している外国人への対応について詳しいお話を伺うことができた。市役所には相談窓口があり、税金・翻訳・住民票・健康・福祉等についての相談を受けるときいた。今後、さらに外国人の人口が国内で増えていくことが考えられる。時代に合わせて柔軟に変化していることに気づいた。

二つ目に、市民主体を重視していることに気づいた。前橋市全体としては、ビジョンに「めぶく～良いものが育つまち～」を掲げており、自らの手で土地を育て、芽吹き、成長を見守っていく意思が込められている。市民が主体となってまちづくりをしていくために、市役所ではそれをサポートする形で働きかけていることが分かった。

三つ目に、働く上での責任感の重さを感じた。どの職業であっても同じことが言えるが、責任感がないと人間関係でつまずいてしまう。信頼を築くためには不可欠なものとなっている。自分の担当する業務はもちろんのこと、周りの人の業務に対しても最後まで責任を持ってやり切る覚悟が必要であると分かった。

四つ目に、大嶋様と塩澤様への個人的な質問を通して得た学びをまとめたい。まず、私の印象に残っている質問が「失敗の乗り越え方について」である。私は失敗することが多々あり、そのたびに落ち込んでしまい立ち直れず、他のことも手につかなくなってしまう。質問の答えを聞いて、どうやって失敗を対処すればよいのかヒントを得ることができた。「仕事で失敗したことに対しては周りの人はあまり気にしていない。その失敗はみんなでカバーできる。失敗した後にはどうするのか、という部分を大切にしている。」とおっしゃっていた。「なるべく失敗しないようにして、失敗したときは頑張っけて取り返すしかない。」という声もあった。失敗に対して落ち込むことにエネルギーを使うのではなく、その後どう行動するのか考えることが重要であると分かった。

「学生時代にやっておいた方がよいこと」については「様々な分野があると思うが、学生時代に何かこれやったというものが一つあればよい。課外活動、学内活動を通して経験することで就活のとき、役に立つ力になるかもしれない。」というアドバイスがあった。私は何もかも中途半端で、一つのことを集中的にやるよりも様々なことに手を伸ばしたいと思って

2019年9月16日

いる。しかし、何か一つでも夢中になれるものを見つけて、自分のアピールポイントを発見したい。大学二年の夏期休暇を終え、学生生活もあと残り半分ほどとなってしまった。漠然と時間を過ごすのではなく、自分は何がしたいのかをよく考えて行動していきたい。取材の中で市役所職員の生の声を直接聴くことができたため、自分のライフキャリアを考える上でもよい参考になったと感じている。

最後に、反省点をまとめる。パワーポイントでの発表については直前で修正したが、少し簡素な内容になってしまった。さらに内容に厚みを持たせる必要があったと感じている。事前研修での他グループの発表から良い点を取り入れたが、限られた時間の中でもよりよいものが作れるようにしたい。取材日当日での反省は、うまく自分の意見を言えなかったり、下調べしたにもかかわらず深く聞き込むためのよい質問ができなかったり、後悔している点が多い。私自身、コミュニケーションをとるのが苦手であるので、普段から発言の機会を増やしていくことを心がけていきたい。

事前研修と取材を終えて、共愛12の力の「協働する力」、「構想し、実行する力」、「分析し、思考する力」が身についた。アポイントメントの電話もグループを代表して挑戦してみたが、とてもよい経験になった。残りの事後研修においては最終まとめを通して、さらに少しでも成長できるようにしたい。

## 感想（高田奈緒美）

今回は、取材インターンシップを通して前橋市役所、文化国際課の大嶋智之様と塩澤典茂様にお話を聞くことが出来て本当によかったです。

取材インターンシップではまず、前橋市役所様に訪問する前に事前研修にて前橋市のことや、前橋市役所様についてグループのメンバーたちと一緒に調べ、まとめ、発表しました。一通りプレゼンテーションを作成し終わってみて、正直に言って、あまり満足はいく出来ではありませんでした。そのままの状態を発表に挑んでみましたが、結果はやはりいいものではありませんでした。他のグループのプレゼンテーションを聞いて、そこをそう加えていたら良かった、や、パワーポイントで、もっとここを工夫すれば良かった、そういった考えがあるのか、など、自分たちのプレゼンテーションよりも遥かにいいものばかりで、衝撃を受けました。前橋市役所様に訪問する際にこのプレゼンテーションをするのは流石にどうかと思ひ、いくつか修正しましたが、納得のいくものではありませんでした。このことは今でもすごく後悔しています。なので、最終発表の際には、このような思いをしないうちにも、私も、同じグループのメンバーである富岡さんも満足のできるプレゼンテーションにしたいです。

前橋市役所様に訪問し、インタビューをした際、私は進行係として大嶋様、塩澤様に質問をしました。慣れないインタビューで声が小さくなったり、上手いコミュニケーションが取れなかったりと、反省ばかりのインタビューになってしまいました。ですが、このようなインタビューにも真摯に受け止め、答えてくださったお二人には本当感謝しています。いつかまた取材や、そういったスキルを必要とする場に直面した時のことを考えると、しっかりと質問の投げかけや受け応えが出来るようにする必要があると思ったので、そういったスキルを磨いていく努力をしていこうと決意しました。事前研修でもインタビューの練習はしたのですが、知り合いにインタビューをするのと、そうでない方にインタビューするのでは全く違うため、インタビューのスキルを上げるには違ったアプローチをしなければならないと思いました。

また、大嶋様も塩澤様も、私たちが事前に提出したインタビューリストに、それに対する答えをたくさん書かれていたので、仕事が忙しい中、作成してくださったと思うと嬉しさと申し訳なさがあります。

大嶋様と塩澤様にインタビューをして、お仕事の大体の内容や、前橋市の理念、個人的なことなどを知ることができました。市役所とは個人プレーではなく団体での仕事なので、どの部署も、前橋市役所の基本理念を軸にお仕事をなさっていることが分かりました。

大嶋様と塩澤様のお話を聞いていて、中でも特に印象に残ったのは学生時代のお話です。お話の内容ももちろん面白くて素敵なものでしたが、何よりもお二人とも懐かしむようにどこか嬉しそうに、楽しそうにお話ししていたので、学生時代の時間というのは本当に貴重で素晴らしいものだということが伝わってきました。学生の中に過ごした時間や経験などは、何年、何十年経とうと、忘れることのできない大切な時間だということがわかりました。私も残りの学生の時間をどう過ごすか、何に時間を割くか、などと大切に使っていきたいと思いました。

この度は、このような機会を得られてとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。これはすごくいい経験になりましたし、これからの大学生活や、就職活動、社会人になってか

2019年9月16日

らの生活に生かしていきたいです。最後に、忙しい中時間を作ってください、私たちの質問に答えてくださった大嶋様と塩澤様、このような貴重な場を作ってください、奥山先生、一緒に事前研修でポスター、パワーポイントを作って発表してくれた富岡さん、大澤さん、小林さんに感謝します。本当にありがとうございます。

まだこれから最終発表を控えているので、訪問前に行ったプレゼンテーションよりも良いプレゼンテーションが出来るように、パワーポイントも発表も、グループのメンバーと一緒に協力して頑張っていきたいと思います。

以上

2019年9月13日

## 2019年度取材インターンシップ 取材記録

訪問先 前橋市役所 環境政策課様  
日 時 2019年8月29日(木)午前9時30分  
場 所 前橋市役所  
学 生 共愛学園前橋国際大学  
チームN 情報・経営コース 2年 齋藤麻厘愛  
設楽理紗  
清水歩果

インタビューリスト

課長補佐 大山 幸成 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。  
よく調べられていてまとまっていたよかったです。
2. 業務内容について
  - 環境政策課の事業内容を教えてください。  
環境政策課には3つの係(環境森林係・環境保全係・赤城森林事務所)がある。  
主に環境森林係では助成事業、生態系の保護、啓発事業(イベントなど)、新エネルギー設備(太陽光・小水力発電所)の導入などを行っている。  
環境保全係では大気汚染、水質汚濁など前橋市の環境の監視をしている。  
赤城森林事務所では市有林の管理、市有林に関わる有害鳥獣(鹿・イノシシなど)の対処
  - 大山様のお仕事について教えてください。  
全体の活動や係員の資料、書類などのチェックまたはその期限などを伝える進行管理に務めている。
  - 環境政策課のお仕事の範囲が非常に多岐にわたりますが、職員のみなさんでどのように役割分担をしているのでしょうか？  
時期や仕事の繁閑によって他の課と協力して活動を行っている。

新入社員にはやりやすい仕事から、プロジェクト活動などの取り組みはベテランを中心として行っている。

2～3年の間で業務を変えていろいろな仕事を実行することで分担も同時に行う。

- また地域のみなさんとどのような協力をしているのでしょうか？  
より多くの市民の方々とふれあいを増やすためにHP や広報で声かけをして自治会や環境についての講座を行っている。  
主なイベントとしては子ども向けの自然体験イベントやエコクッキングなども行っている。
- 職員のみなさんが地域の環境活動にかかわる目的、やりがい、ご苦労についてお聞かせください。  
なかなか必要な資金が集まらない状況でも自分事業が認められ成功した時にやりがいを感じ、その事業に対しての協力が得られなかったり事業がうまく進まなかったりした時に大変だと感じる。
- 様々な業務を担当なさっていると思いますが、そのなかで何か困っていることはございますか。  
社員のみなさんに仕事の手伝いをしてもらいたいときどうすれば快く受け入れてもらえるか考えながら進めることが難しい。

### 3. 学生から見た魅力として「SDGsの取り組み」があります。

- 前橋市の特徴的な SDGsの取り組みを教えてください。

→6 月が全国で環境月間であるため、環境政策課は環境パネル展を行っている。

また、環境部が新エネルギー設備の導入、食品ロス削減の推進、小型家電等の回収に取り組んでおり、新エネルギー設備の導入として小水力発電と太陽光発電を行っている。

- 前橋市の子どもたちにむけて、どのような環境活動をされていますか。

→環境の学び舎授業として自然体験のイベントや講座を行っている。夏休みに前橋市の小学校に資料を配布して、家族で環境維持に協力してもらう活動をしている。また、環境基本計画を分かりやすくしたものを配布して、前橋市の小学5年生を対象に前橋市環境文化センターで環境教室を実施している。

- 環境政策課での事業を踏まえ、学生にもできること、また求めることはございますか。

→環境について考えること。

様々な面で環境維持のために協力すること。(ゴミを分別する、省エネを心がける、食べ残しをなくす、エコバックを利用する 等)

#### 4. 「めぶく。」について

- 大山様は前橋市のビジョンである、「めぶく。」とはどういうこととお考えでしょうか。

→将来都市像などを実現するための基礎になる部分。

- 環境政策課では「めぶく。」というビジョンのもと、どのような政策を行っているでしょうか。

→現在の環境を守って、次の世代に繋げていく活動を行っている。具体的には、環境について考えてもらうための講座や啓発、子どもたち向けの体験活動を行っている。

ここからは個人的なご感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。

#### 5. 大山様の就職の経緯をお教えてください。

当時は、群馬に就職し幅広い仕事をしたいと考えていたから。

#### 6. 就職したての頃に苦労したことは何でしょうか。

就職したての頃は年上の方が多かったためなかなか職場に馴染むのが難しかった。

#### 7. 業務の中で楽しいと感じることは何でしょうか。

行っている事業や活動の中、市民の方々と関わる上で感謝されるとうれしい、楽しいと感じる。

#### 8. 業務の中で苦しいと感じることは何でしょうか。

市民の方々の中で役所がすることが不可能な取り組みをしたい、または自分の主張を通したいというクレームなどの説得や対処が難しいときに苦しいと感じることがある。

#### 9. 仕事と生活の両立のコツについてお教えてください。

仕事とプライベートのメリハリをつけること。

仕事時は仕事に専念し、家にいるときは仕事のことは考えずにプライベートの時間を大切にする。

10. 業務においてやりがいを感じる時はいつですか。

自分のやりたい事業が、自分の想定していたスケジュールや内容で進んだとき。

11. 環境政策課の職場の雰囲気をお教えてください。

20代～30代の職員が多いため活気がある。

12. 前橋市役所では人材採用の際、どのような点を重要視していらっしゃいますか。

話をするときにアイコンタクトができているか。自分の主張をはっきりと言えるか。2次試験、3次試験が面接なので人物を重視している。

13. 学生時代にやっておくべきこととは何とお考えでしょうか。

アルバイトを経験する(人付き合いやお客様との接し方を学ぶため)。  
旅行をする。

環境企画係 主事 亀井慎太郎 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

よく調べられていてまとまっていてよかった。

2. 業務内容について

- どのようなお仕事を担当されているか教えてください。

太陽光発電所の維持管理、省エネ機器に対する補助金の窓口、自然環境調査(鳥や植物、昆虫などの生息調査)

- 職員のみなさんが地域の環境活動にかかわる目的、やりがい、ご苦労についてお聞かせください。

知らないことが多かったので勉強することが多く、知識が増えていくことにやりがいを感じる。

3. 学生から見た魅力として「SDGsの取り組み」があります。

- 前橋市の特徴的な SDGsの取り組みを教えてください。

環境配慮型社会の形成の基に地球温暖化の防止に努めていて、小水力発電所の建設から発電に至るまでを市町村で行っている。

- 前橋市の子どもたちにむけて、どのような環境活動をされていますか。

前橋環境家族(7、8、9月で子供にもできやすいようなものを家庭で実施してもらう。)、小学5年生で環境学習の実施(環境について知ってもらう。また、めだかの学校というもので生態系を知ってもらう。)

- 環境政策課での事業を踏まえ、学生にもできること、また求めることはございますか。

1人でやっても変えられないから、身近な環境について興味を持って考えること。

ここからは個人的なご感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。

4. 前橋市への就職の経緯をお教えてください。

大学で4年間東京に出たことで、周りの人に支えられていたことに気づき、一般企業で会社の利益のために働くよりも、お世話になった人に恩返しがしたかったため。

5. 就職前後を比べて変化したことをお教えてください。  
業務について聞かれたときに、自分の発言が代表としての発言になるので、発言に対する責任感が重くなった。
6. 就職したての頃に苦労したことはどんなことですか。  
いきなり社会に出て何もわからないことに苦労した。インターンシップにも参加したことがなかったので、社会人のマナーや仕事の進め方などわからなくて苦労した。
7. 業務の中で楽しいと感じることは何でしょうか。  
日々業務が変わっていく中で、業務をうまく対応でき、スムーズに進む時。
8. 業務の中で苦しいと感じることは何でしょうか。  
業務に対してうまく対応できない時。
9. 業務においてやりがいを感じる時は何時ですか。  
勉強することが多く、知識が増えていくことにやりがいを感じる。
10. 環境政策課の職場の雰囲気をお教えてください。  
和気あいあいとしている。わからないことがあったときに助けてくれて、こえをかけてくれて、協力しながら問題解決でき、頼りになる方がたくさんいる職場。
11. 仕事と生活の両立のコツについてお教えてください。  
仕事と生活でメリハリをつけることがコツ。ジムなどで汗を流すことで切り替える。休日になるべく外に出てリフレッシュすることを心掛けている。
12. 前橋市をより良くするため、これから取り組みたいことは何でしょうか。  
環境は変わるので、新しい助成金について検討し、充実させることで前橋市の家庭から出るCO2の削減の寄与に取り組みたい。
13. 学生時代にやっておくべきこととは何とお考えでしょうか。  
挨拶大事。仕事ができなくても基本的なことをできるようにしておく。

以上

## 感想

情報・経営コース 2年 齋藤 麻厘愛

私は、取材インターンシップを受講する上で前橋市についてより理解を深めたいと考えました。私は地元が前橋市ではありませんが私は現在、前橋市にある共愛学園前橋国際大学に通っています。しかし前橋市についてあまり深い知識や考えたりする機会がありませんでした。そこで今回の取材インターンシップを通して、地域社会を大切に、自ら主体的に学ぶという教育理念のもと、前橋市役所が市のために実際に行っている市民活動や地域の環境政策またその取り組みについて深く追求したいと考え前橋市役所に行きさまざまなお話を伺いたいと思い今回の取材インターンシップに参加しました。

まず事前研修についてです。前橋市役所へインタビューをしに伺うのにあたって、インタビューをする上でのノウハウや具体的なマナーや態度について学びまし。相手の方がお話をしているときに、傾聴したり、表情を大切にしたりするなどの一般的なマナーであつてもわりと意識していないとできないことだと感じました。次に電話でアポイントメントを取るときのマナーについてです。電話をかける際にあらかじめ訪問する日にちをいくつか準備して相手の方の都合をお聞きしたり、電話を切る際は目上の人の場合は相手が先に切ったのを確認してから電話を置いたりなどまだ知らないマナーがたくさんありました。

また企業調査のプレゼンテーションを発表することを前提として作成したスライドに対する質問やつっこまれそうな部分は事前に応答を用意しておくべきだったと反省しました。またインタビューリストを作成するにあたり課長補佐さま、ご担当者さまでそれぞれに見合った質問をあまり用意できていなかったことがいまひとつだと感じました。

そして実際に前橋市役所に伺った際にプレゼンテーションの発表をしました。緊張して練習で発表した時のようにスムーズに発表ができずあまり前を向いて話せなかったことを少し後悔しています。次にインタビューリストにある項目についてお話を伺いました。前橋市のHPなどには載っていない具体的なプロジェクト活動や取り組みや課長補佐さまやご担当者さまの具体的な事業内容など詳しいお話を伺うことができました。また、各グループでプレゼンを発表した際の質問でもわからなかったお話を実際に伺い理解することができてよかったです。事後研修ではいよいよ最終プレゼンテーションの発表になるので、取材インタビューで学んだこと、得られた知識をもとによりよいプレゼンテーションの発表ができるように頑張りたいです。

## 感想

情報・経営コース 2年 設楽理紗

取材インターンシップに参加し、以前から興味、関心があった市役所を取材できたことはとても良い経験になりました。自分で調べたり、取材をしたりするまでは市役所にどんな課があり、それぞれが具体的にどのような活動をしているのか知りませんでした。この取材インターンシップを受講して初めて市役所について調べ、グループで情報共有し、自分なりの言葉でプレゼンテーションをしました。私が取材したのは環境政策課というとても幅広い業務を担当されている課であったので、まとめるのが難しいと感じることもありました。特にSDGs（持続可能な開発目標）に関してはとても難しく、パワーポイントを作成する際に一番時間をかけた所でもあります。このように難しい部分もありましたが自分たちなりにまとめ、実際に前橋市役所にてプレゼンテーションをさせていただきました。緊張していて、分かりやすく伝わったか不安もありましたが、市役所の方にお褒めの言葉をいただくことができとても嬉しく思いました。また、自分たちがインターネットで調べただけでは分からなかったことや詳しい業務内容について一つひとつ丁寧に教えてくださいました。また、質問項目以外のこともお聞きすることができました。最初は緊張していましたが、市役所の方々が雑談を交えながらお話ししてくださったので、自然な流れで取材を進めていくことができました。時間もあっという間に経ってしまい自分たちでも驚きました。相手からの答えに対してさらに深く掘り下げて質問をすることで話が広がっていくことを実感することができました。そして、環境政策課は、現在の環境を守り次の世代に繋げていくような活動を沢山行っていることが分かりました。啓発活動の他に、子どもたち向けの体験活動などもあり幅広い世代の方に環境について考える機会を作り出していると感じました。このような機会を増やすことで、より良い前橋市になっていくのだと思います。私も環境のためにできることを、普段の生活でしていきたいと思いました。

この取材インターンシップを通して、インタビューのノウハウやマナーを学ぶことができたので良かったです。市役所職員は自分の将来の視野に入っているのです、この取材で知ったことを参考にしたいと思えます。

## 感想

情報・経営コース2年 清水歩果

今回前橋市役所に取材に行き、事前に調べていたけど知らなかったことや、自分が今後就職活動をする上で気になっていたことなど、様々なことを知ることができ、とても貴重な経験になりました。

取材当日の朝、私は事前研修でインタビューのノウハウを学んで、実際にインタビューリストの作成をしてはいたが、相手の話したがる話題に沿った質問をすることができるか、この質問数で質問時間いっぱい質問し続けられるか不安でした。しかし、実際に行った時に思っていたよりも長い時間、作成していたインタビューリストにない質問までお聞きすることができたのでとてもよかったと安心しました。当日の初めに市役所に行ってプレゼンを行った時に、初めて社会人の方の前でプレゼンを行ったのでとても緊張しました。正しい情報を言えているか正しい言葉遣いになっているかなど、学校の授業でプレゼンする時よりも色々なことを気にしていて普段の緊張とはまた違った緊張感がありました。その後のインタビューの時に、社会人でもプレゼンする機会があると言っていたので、学生のうちにもっとプレゼンが上手くできるようになる必要があると思いました。また、取材に行った時に、市役所の方が質問した内容をただ答えてくださるだけでなく、理由や関連したお話についても詳しく話してくださったので、自分も質問に答える時は、ただ質問の内容に答えるだけでなく、理由とセットで長く答えられるようにしたいと思うと同時に、普段は聞くことができないような深い話までたくさん聞くことができたので、この貴重なお話を自分の将来のために生かしていきたいと思いました。

今回の取材インターンシップの事前研修から実際の取材までを通して、コミュニケーション力や対人スキルが向上したように感じました。普段は実際に社会人の方と関わる機会はほとんどないので、経験値の高い社会人の方から直接お話を聞いたことでいつも以上に学ぶことがとても多かったと感じました。今回学ぶことができた多くのことをこれから生かしていけるように今回学生のうちにやっておくべきことなど、今からできることを聞くことができたので、それを今の段階から実践していきたいと思います。今回の取材インターンシップの貴重な経験を将来に生かし、自分の成長につなげていけるよう、無駄にしないようにしたいと思いました。事後研修前ですが、今回取材インターンシップを受講してよかったと改めて思いました。

2019年9月16日

## 2019年度取材インターンシップ 取材記録

訪問先 前橋市環境部環境政策課 様  
日 時 2019年8月29日(木)午前9時30分  
場 所 前橋市役所  
学 生 共愛学園前橋国際大学  
チームP 心理・人間文化コース2年 富樫季実  
心理・人間文化コース2年 笛木茉悠

### インタビュー記録

課長補佐(兼)環境森林係長 大山 幸成 様

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。

分からない中で細かく調べてもらってよかったと思います。総合計画っていうのがなかなか職員一人ひとりに行き渡っていない中で調べてもらってというのは良かったと思います。もし調べるのであれば、みんな個人の興味があることだったのでみんなでひとつのストーリーとかになっているのもっといいのかなと。あとは調べた中で何を伝えたいかとかという部分をフォーカスしてプレゼンすると分かりやすいかな。この辺ができればもっといいかなと思います。

2. 業務内容について

・環境政策課の事業内容を教えていただけますか。

環境政策課というのはこととお調べいただいたように三つの係からなっております環境森林係、環境保全係、赤城森林事務所で、私と亀井がいるところは環境森林係というところで環境基本計画という環境部の計画を立てているんですけども、その推進を主に業務としてまして、その環境基本計画というのはさっきお調べいただいた総合計画の下に位置する計画で総合計画がマスタープランという市の主計画になってそれを推進するために各部署で色々な計画だとか事業を実施してその総合計画の目標の達成に向かって事業とか計画を立てて推進するで、その一つの環境基本計画になっててその推進をする旗振り役みたいなのが私たちの環境森林係になっています。そういったところでの環境の色々な啓発事業みたいなのをしたりっていうことで、こういうの協力してくださいみたいな円滑な推進だとか、後は太陽光発電メガソーラーっていうのを市で作って、去年から小水力発電所っていうのを作って農業用水みたいな田んぼに入ってくるお水なんか用水みたいなその田んぼに入ってくる水を田んぼに入ってくる前に発電所に水を入れてその水を使って発電してその発電したものは売電と言って東京電力に売っていてその売った収益みたいなのを使

って市民の皆さんに色々市民還元していたりしています。そういった事業みたいなのをしているのも環境森林係ですね。環境保全係はさっきお調べいただいたように色々な大気汚染だとか環境の騒音だとか水質汚濁とか環境に干渉しているようなところが環境保全係。森林事務所っていうのは字の如く森林の担当してたり、あとは森林を食い荒らすような有害鳥獣、鹿とかイノシシとか熊とかの目撃情報があった時に対応しているのが赤城森林事務所になります。

・調べた中にはより実地的とあったのですが実際に駆除などは行われていますか。委託されていますか。

委託、猟友会っていう所に頼んでるんですけど、それは現場には行ってたりで実際とる時もあるし熊野となかなか取れなかったりするんですけど実際に行ってるんは行ってますね。なかなか命がけのところもあるので。いつ出てくるのかもわからないので、出てくると当直に市民のところから連絡があってその当直から担当部署の方に連絡があって、夜間とかでも出て行くのが大変というのがありますね。

・大山様のお仕事について教えてください。

私は細かい業務が担当してなくて、職位が課長補佐って言う色々な係員の指示とか進行管理とかをしていたり、あとは課題が出てきた時の課題解決とか、何かしようと思うと自分の課だけではできなくて他の予算とかの関係があったり他にも関係する部署っていうのがいくつも出てくるのでそういったところの調整みたいなをしていますね。一つの事業するには環境政策課だけではできないのでいくつも課を集めて日程調整をしたり。あとは自分でやりたいような事業があればその中に入って調整をしたりするのが僕の仕事になります。

他の方を率いているという感じですか。

そうですね。係員が6人いるのでその係員の進行管理をしているというような感じです。

・環境政策課では、職員の皆さんでどのように役割分担をしているのでしょうか。

分担は、大体の業務量というのが時間では把握していないけどどのぐらいの業務量があるのかっていう分かるのでその業務量が1年間でみんな平均で同じような量になるように分けています。で、中には困難な業務と色々な課題解決に向けた新しいプロジェクトとか、後は普通にやるような毎日毎日同じことをやるようなルーティーンといった仕事もあります。新しいプロジェクトっていうのを進めるのは難しかったりするので比較的年齢の高い人に割り振ったり、定例的な業務は若い人にやらせたりというのはあります。役所の移動スパンというのがだいたい3年から5年くらいになっているので、それをずっと続けても同じ職業についてマンネリ化しちゃうりするんで2年から3年のスパンで業務は変えていくつもの業務を経験できるような形で業務分担の方はわりふっているような感じです。

・移動などがあると全然違う業務につくこともあるのでしょうか。

民間企業だと同じような業務の違う部署に異動になるような感じだけど役所だと役所自体のの仕事が一つの社会全体の仕事になっているので課が変わると転職するようなもので。まだ環境部のなかであればゴミの仕事だとか環境の仕事だとかあと施設の管理をしたりで似たような仕事もあるけどそれが変わっちゃうとも転職しちゃうような、例えば福祉部に行けば生活保護の方の業務をしなくちゃだったり市民文に行けばいきなり何も知らないような市民課とかで証明の発行をしたり南西館に行けば農家さん相手に仕事をしたり 産業政策に行けば今度は事業者の方とかそれをやっている方と関わり合いの仕事をしたりとかで、もう全然幅広い仕事になっているので。

・また地域のみなさんとどのような協力をしているのでしょうか。

環境基本計画の中で色々な市民の皆さんに環境政策の仕事って啓発だったりするので自分のところだけでは仕事が進まなかったりするので、例えば地球の温暖化とかは私たちだけで行ってもどうにもならなくて市民の皆さん一人一人の取り組みが大きな力になって、これが市単位あるいは県単位みたいになって繋がっていくものなので、そういったところで市民の皆さんといろいろなイベントなどで関わり合いを持って協力をしてもらっているという感じですね。主にイベントなどが多いです。後は色々な環境講座みたいなものが地域から依頼があって民間の会社や自治会さんの方から来たりって言うのでやってたりします。

・職員のみなさんが地域の環境活動にかかわる目的、やりがい、ご苦労についてお聞かせください。

目的というのは私たちだけでは環境基本計画の推進というのはできないので、そういった意味で協力をお願いしなくちゃいけないのでその協力の願いが目的になります。協力をお願いしているけれどなかなか数値になって現れてこない。前橋市の中でも環境基本計画の中で地球温暖化防止ので二酸化炭素温室効果ガスの削減を目標に掲げていて市民の皆さんに協力お願いしているけど、結果とすると今計画では来年度中に平成 21 年度から 11% 美味しく効果ガスを減らさなくちゃいけない目標を立てているけど実際は 10% 増えているような状況だったりするので、その辺がなかなか頑張って色々なことをしても数値に表れて来ないというのが難しいところかなという風に感じています。やりがいは、それが下がれば達成感が出てきてやりがいになると思うけど、、、。

一人にわかってもらうだけではだめですもんね。

それを家庭に持って帰ってもらって家族全体で取り組んでもらわないとその成果は現れてこないの。

様々な業務を担当なさっていると思いますが、そのなかで何か困っていることはございますか。

年を取ってきて残業とかをすると次の日つかったりする。

・何時ぐらいまでいることがあるのですか。

今の部署ではそんなにはないですが前の部署だと8時9時ぐらいまで。もっと忙しい部署とかだと市民税課とかだと確定申告の時期とかに集中して業務を進めなくちゃいけないので毎日8時9時とかがずっと続くとか。自分も若い時やっていたけど。

3. 学生から見た魅力として「SDGsの取り組み」があります。

・前橋市の特徴的な SDGsの取り組みを教えてください。

市の特徴的な取り組みというのは分からないけど、共愛では政策推進課が窓口になっていない？そういう部門の方が詳しいと思うんだけど、私たちの所というのはこれがうちの方で毎年環境のパネル展をするって言うので今年課長も前政策にいたのでエスディーゼズのところちょっと取り入れてみるかねって言って実際は1階のところにパネルとしていくつも色々環境の業務を入れる中の2枚なんだけど、エスディーゼズってこういうものですよって言うのなんですけど。主なエスディーゼズの中のアイコンがいくつもあると思うんだけど、その中のアイコンはそういう業務であればこういう業務に該当しますよって言うのを拾っているんで、うちの所の課の業務いくつも細かい業務をピックアップしたなかでうちの課の業務として該当しているのはこの新エネルギーの開発というのを今回取り上げてて、これはさっき説明した省水力発電所だったりメガソーラー太陽光発電であったりって言うのがどんなアイコンに該当するかって言うのを拾ったものがコレなので 再生エネルギーの関係だとか技術革新の関係だったりとかそういった循環型社会とか SD ディーズの根幹にきている持続可能な社会とかそういうものにつながっていますよとかあとは気候変動に関係するからこういったものを進めれば原子力だとか火力発電は少なく済むからそういったところで二酸化炭素の削減になってそれが今起こっているような気候変動だとかを和らげるというかくい止めるって言うところになると思うので、そういったところでどのアイコンに該当するかなーって言うところがあるので。

・前橋市の子どもたちにむけて、どのような環境活動をされていますか。

環境活動っていうのは、、前橋の小学生だと全部じゃないんだけど夏休みとかに前橋の環境家族っていうのを学校に配って環境に対する取り組みをこういうので磁石か何かで冷蔵庫とかに貼ってもらって取り組みをすると潰してもらって言うのを毎年行ってもらってて提出すると記念品がもらえるっていうような取り組みをしていてこういったもので簡単に環境に取り組んでもらうって言うのでこういうものに取り組んでいたりしてたり、あとは前橋の小学生だと5年生になると児童文化センターというところで環境教室をするんだけど、そういった

ところでさっき説明した環境基本計画、これは分厚い冊子だけど それより親しみやすい形にしたものを通じて環境基本計画の推進に取り組んでもらおうというので子供向けのアイテムを作って環境に触れてもらって言うような状況があります。

・冊子などはすべて環境政策課で製作しているのですか。

そうですね細かいデザインの部分は印刷業者さんをお願いしている部分もあるけどほとんど内容は環境政策課の方で作っています。

・小学生の参加は多いですか。

多いですね。これは確か 2000 人ぐらい参加してくれて。

・身近な季節感じ隊ではサクラが多いなと感じたのですがそれは理由があるのですか。

身近な季節感じ隊は桜とセミと ツバメについて行っていて、季節を感じるものを取り上げているので春夏秋冬取り上げているわけじゃないけど、桜だと春だったりセミだと夏だったりっていうのを取り上げているので。

・環境政策課での事業を踏まえ、学生にもできること、また求めることはございますか。

学生にもできることは、市民の皆さんをお願いしているのは、7次総合計画もそうだし環境基本計画もそうだし温室効果ガスの削減っていうのを目標に掲げているので、それが削減されるような様々な取り組みがあるので、そういったところで一人組の協力をお願いしたいっていうのがありますよね。食べ残しであったりゴミの分別であったり後はエコ市役所にもあるが、大きいゴミ箱はあるけど職員の所には小さいゴミ箱ってひとつもないんですよ。そういうところでゴミの削減っていうのを市役所全体で取り組んでいたりするのでゴミの分別・減量だとか、なるべく公共交通機関を使って群馬は車の保有台数が多かったりするので。そういう部分で公共交通を使ったり、なかなか難しいけど乗り合わせを使って色んな所に行ったりっていうので協力お願いできる部分はいっぱいあるので冊子にでもお渡しする部分がいっぱいあるのでぜひご協力のほうをお願いしたいと思います。

・ゴミ箱の撤去後ゴミの量は変わりましたか。

変わったと思いますね。ただそれが役所だと減っているのかもしれないけど持ち帰っていたりするから。後は分別も細かくしてたりするから、コピーは裏面を使ってもう一回印刷をしていたり。市民の皆さんに配るような資料などは使っていないけど内部の資料に使うような紙だったりっていうのは裏面をもう1回印刷して有効活用していたりっていうのはあります。

#### 4.「めぶく。」について

・大山様は前橋市のビジョンである、「めぶく。」とはどういうこととお考えでしょうか。

めぶく。についてはあまり意識していないけど、ここにあるように良いものが育つ街とあるんですけどいいものが育つ町の礎と言うか基礎を作るのが市役所の仕事であると思うので環境政策では特に自然環境とかもう仕事をしてたりするからそういったものを次の世代に引き継げるように頑張るって行かなくちゃいけないかなというのは考えています。二つ目も言っちゃったね。

・環境政策課では「めぶく。」というビジョンのもと、どのような政策を行っているでしょうか。

#### 5. 大山様の就職の経緯をお教えてください。

就職してから時間が経っているからあまり参考にならなかつたりするかもしれないけど、私は大学に出て地元に戻ってこようかなってというのがあったので、色々な幅広い仕事がしたいなと思っていたのでそうすると公務員がいいかなと。

・これまでどのような部署にいましたか。

市民税課、職員課、水道局、でも水道局にいても同じような総務課のような仕事をしていたので。後は今の環境政策課だったり、あとは人事交流で消防局にいたときもあったし。でも総務課のような仕事をしていたので総務全般の仕事をするような部署が今まで多かったですかね。

#### 6. 就職したての頃に苦労したことは何でしょうか。

学生の頃は友達と同じような歳の人が多かったりするけど役所に入った後はお父さんお母さんと同じような歳の人と机を並べて仕事をするので、その辺はちょっとなかなかなじめない部分があったりしたので。

・どのように馴染んでいきましたか。

あまりいいことではないかもしれないけど言葉遣いとかには気をつけていたり、あまり強い言葉で言うと生意気だなんて思われたりするんで、自分の意見は主張しながらもあまり角が立たないような感じでというのは意識していました。

#### 7. 業務の中で楽しいと感じることは何でしょうか。

自分の思い通りに仕事が進められたらいいなっていうのはあって、こうしたいという思い通りに進められたら楽しいかな。

環境政策課の中などでもこういう事業がしたいなっていうのがあって、なかなかお金がかかったり色々な協力が必要だったりっていうのがあるけど、予算の確保ができて周りからの協力が得られて。どうしても協力を得るって言うのは他の課とかが自分の部署以外の仕事が増えたりするので、そういった部分でも協力してもらえて自分の事業を進めるために協力してもらって授業が進められた時は楽しいと言うか達成感みたいなものもあります。

・これまでに自分が提案して形になったものなどはありますか。

ありますね。環境政策ではイベント事だったりするし後は水道局の頃だと色々な計画を作ったり。

8.業務の中で苦しいと感じることは何でしょうか。

逆のことで協力が得られなかったりということもあるし、市民の人のクレーム対応とか。自分が間違ったことをしていれば市民の方に怒られるのはしょうがないと思うけど、正しいことをしていても市民の人のある人にとっては正しいとか正しくないとかではなくて自分の主張が通るといのが重要な部分であったりするから、そういったところでなかなか説得できなかったりというのがある時は苦しいかなと感じますね。

・クレームの対応なども大山様が対応していたりするのですか。

しますね。どうしても係員が受けている部分で係員の対応ではどうにもならないというのは私は今課長補佐と言う職位だけどそうすると次は私とかが対応することになりますね。

・実際にここに来るクレームは公害とかですか。

そうですね。

・結構多いですか。

まあ実際は隣の係の方でしているので比較的私の担当する係の方ではあまりないですね。

9.仕事と生活の両立のコツについてお教えてください。

難しい質問だね。これはワークライフバランスとかそういうところ？仕事と生活はきっちり分けるということですかね。家に帰ったら仕事のことは考えないし、仕事の時は家の事を考えない。その切り替えができていいかなと思います。

10.業務においてやりがいを感じる時はいつですか。

やりがいはさっきみたいな自分の事業が進められた時とか。後はこの部署はそんなにかもしれないけど市民の方に何かした時に感謝されるとかそういうのはやりがいを感じるかもしれないですね。

11.環境政策課の職場の雰囲気はどうか。

うちの環境政策課は比較的若い職員が多いので活気があるような感じですかね。年配の人がいっぱいいるから活気がないというわけでもないけど。

12.前橋市役所では人事採用の際にどのようなことに気をつけておられますか。

私もちょっと採用の現場じゃないから分からないんですけど、多分今は人物重視前だと思います。1次で筆記があってそれである程度できれば結構受かってたりとか、その後面接があるので面接で普通にしていれば受かってたのかなというのはあったような気がするけど、今だと2次面接3次面接っていうのがあって、より人物が重視されているというところが。筆記はある程度最初の入り口部分にすぎなくてその後の面接の方が重要視されていて人物重視という所があるのかなと。

13.学生時代にやっておくべきことはありますか。

色々な事を体験しておくのは視野が広がっていいのかなと思います。色々な所に旅行に行ったり色々な経験をするとか。後は勉強が本分だけどいろいろなアルバイトをすることで仕事と言うか色々な仕事も経験できるし、いろいろな人とも関わり合いになるので人付き合いを覚えると思うので。学校だと同じような年齢の人としか関わらないし、嫌いな人がいればあまり接触しなければいいんだけど、社会に出れば嫌いな人とも仕事をしなくちゃだしそういった部分ではいろいろな、アルバイトバイトじゃなくてもいいかもしれないけど、アルバイトをするっていうのもいい経験になると思います。

・何かアルバイトはされていましたか。

自分の時は家庭教師と塾の講師と服屋さんみたいな所でバイトしてたり喫茶店みたいなところでバイトしてたり

・何の仕事が役に立ったりとかはありましたか。

でも全部のバイトが役に立ったと思いますよ。そのためにバイトしていたわけではないけど今思えば役に立ったなど。

## 環境企画係 主事 亀井慎太郎 様

※その場で考えた質問は○、環境政策課長 大原豊成様にお答え頂いた内容は△をつけています。

1. 私達のプレゼンテーションのご感想をお聞かせください。  
わかりやすくよくまとまっていた。細かいところは中々ホームページだけではわからないところもあるので質問の中でうまく話せるようにしたいと思います。エコ・プロジェクトについては、平成 21 年、私が入る前からの事業になるので正直わからないところもあったので勉強になったと思いました。

○環境政策課が 3 年目なのですか。

そうです。ここが初めての部署です。入る前の事業については聞かないとわからないので。

2. 業務内容について

- どのようなお仕事を担当されているか教えてください。  
市の方で太陽光発電所を 3 ヶ所持ってまして、その維持・管理業務というのがまず 1 つです。あとは、省エネ機器の補助金に関する窓口業務や申請の受理に関する事務手続き、あともう 1 つは自然環境調査といって、前橋に生息している生き物の調査を業者さんに依頼して、それを最終的には報告書にまとめて概要版にしてもらってという業務の連絡のやり取りや取りまとめをしています。大きくわけてその 3 つになります。

○この仕事は何人かでなさっているのですか。

副担当がついたりしますが、主担当は私が持っています。

○省エネの補助金は結構申請なさる方がいらっしゃるのですか。

結構多いです。エネファームという給湯器とヘムスは「幾ら電力が発電してますよ」というモニターのようなものに対する補助金を出していて、去年は年間 130、40 あってヘムスでは 50 件。トータルで 200 件弱あるということですね。昔太陽光の補助金の時は年間 300 件程ありました。少し減ったとは思いますがそれでもある程度の数はあるかなと思います。

※HEMS:Home Energy Management System の略称。家庭で使うエネルギーを節約するための管理システム。(出典:パナソニック株式会社 HP より)

○今は太陽光の方は受け付けていないということですか。

そうですね。

- 職員のみなさんが地域の環境活動にかかわる目的、やりがい、ご苦労についてお聞かせください。

私の担当ではないのですが、環境保全活動をする公共団体さんや自治会さんに補助金を出してまして、そういったところで保全活動に市役所も関わっているということになります。担当している人の様子を見てみると、環境活動をしたいけど資金がないという団体を補助することにより環境活動を支えていることにやりがいがあると思います。ただ、行う活動は団体さんに決めてもらうのですが、例えば少し観光要素が強い、歴史と環境のツアーみたいな内容で歴史の要素が強くなってしまって環境面が弱いと補助金の申請が受け付けられなくなってしまいます。受付ができるように少し活動内容を修正させてもらったり、一部条件を設けたりして補助金を出したりするところが苦労しているところですね。中には活動の申請をしても参加者が集まらず泣く泣く中止になってしまうこともあるので苦労している部分です。

3. 学生から見た魅力として「SDGs の取り組み」があります。

- 前橋市の特徴的な SDGs の取り組みを教えてください。

別段これとって、ということはないかなと思うのですが、お調べ頂いた7次の総合計画6章の中に持続可能なまちづくりというのがある中で、その中に環境配慮形社会の形成というのがありまして、その辺りが環境に関わってくる推進計画の1つということになるのですが、またその中に地球温暖化の防止というのがある中で、そうすると再生可能エネルギーの推進などというのが業務に関わってきてその辺が特徴的な取り組みになるかなと思います。小水力発電所というのがあり、それが前橋市の環境政策課が自前で持っている発電所になっておりますので、維持管理など一定の業者委託などはしますが、群馬県内でも他の市町村では自前の小水力発電所を持っているのはあまりないのでそこが特徴的かなと思います。

○SDGs の取り組みというのは、その取り組みとして何かやっているというよりは、環境政策課の業務の中でそういった方向(SDGs の内容)で取り組んでいくということなのですか。

紐付けて、ということになりますかね。

- 前橋市の子どもたちにむけて、どのような環境活動をされていますか。  
環境啓発というところで、お子さんに向けて「まえばし環境家族」と、環境基本計画の概要版というのを作っていて、それを配布しています。「環境家族」であったら、市立小学校の全校生徒さんに向けて配って、7月・8月・9月の取り組み内容を書い

て、それをお子さんに向けて取り組んでもらって、例えば簡単に冷蔵庫の開ける回数を減らすとか、夏休みの課題として学校さんに出してもらうこともあります。環境基本計画の概要版であれば、児童文化センターの方で小学校 5 年生になると環境教室というのがあって、その教室の中の教材の 1 つとして使っています。あとは私の担当する業務である自然環境調査では魚と水生昆虫の調査をしまして、児童文化センターの、メダカを通して自然を学ぶという「メダカの学校」の参考資料として自然環境調査の改訂版を配布して小学生に見てもらっています。

○実際に「メダカの学校」などで子供たちと関わったりなどなさるのですか。

それはやっていないです。児童文化センターの理科の先生がいらっしゃいますのでお任せしていますが、時には見学に行きってどういった風に使われているのか見に行ったりすることはあります。また出前講座というのがありまして、市民団体さんや自治会さんから依頼がありましたら依頼内容に基づいて講座を行いますので、そういったときは市の職員がパワーポイントを作って説明しています。

○実際に亀井様が行かれたりするのですか。

行きますね。一昨年は元総社の公民館で水生昆虫や魚の説明をしました。

○その内容は実際に前橋の川にいるもので行うのですか。

そうですね。実際に川にいる魚などピックアップして「こういったものがありますよ」また、「こういったものがあるのでお子さんと川を見る際は説明してあげて下さいね」というのを伝えています。

○では、お子さんだけでなく結構色々な世代の方に説明などなさっているのですか。

そうですね。

○調査というのは、前橋市内は全域担当なさっているのですか。

そうですね。まあ全域というわけにはいかないのですが、ある程度ポイントを絞っています。全部で 27 の地点にわけて上手く散らばるように設定しています。

- 環境政策課での事業を踏まえ、学生にもできること、また求めることはございますか。

環境について理解して知ってもらおうということが大事なのかなと思います。なかなか環境はお2人(インタビュアー2人)の力だけではなんともできないことが多いと思いますので、環境についてしっかり学んで、理解して、考えてもらうということが1番大事だと思います。細かい話などはホームページでも出していますが、わからないこともあったりするので発信には努めておりますが受け取る側の方もある程度興味を持ってもらい、環境について考えてもらうことが大事かなとは思っています。

△あとは新聞の環境の記事をよく読んでもらって、現在の前橋がどうなっているか照らし合わせてもらうといいと思います

○環境関係の記事は新聞にはよく掲載されてらっしゃるのですか。

△環境とは大きいことですので、大体国関係だったりそういうところの取り組みで、あとは細かい取り組みであればこういう自治体で管理しています。結構掲載されていると思います。

ここからは個人的なご感想で良いのですが、よろしければお聞かせください。

4. 前橋市への就職の経緯をお教えてください。

私は3年目になりますが、大学卒業後すぐに入職しました。大学生の頃は公務員1本に絞って就職活動をしました。3年生の時に、東京の学校に通っていたものですから地元を離れてみて改めて私自身が家族や地域の方々、お世話になった先生などに支えられていたんだなあということにすごく実感するようになりました。いざ就職するときに、企業に入って売上や業績に向かって仕事をしていくよりはお世話になった方々に恩返しができるような仕事がしたいと思って公務員に絞ったという経緯がございます。

○ご出身は前橋市なのですか。

生まれは前橋なのですが、今は伊勢崎に住んでいます。小学生になるまでは前橋に住んでいました。小学生に上がると同時に、伊勢崎にきました。ただ、幼い頃って結構色々な場所に行ったりしますよね。私は小さなころに両親に色々なところに連れていってもらって、好きだった公園があったのですが、幼かったので公園の名前がわかりませんでした。前橋の職員になって、仕事をするようになってその公園が嶺(みね)公園だったということがわかりました。だからやはり小さい頃の遊びの中で前橋が良い所だと思いましたし、また知り合いなども前橋に住んでいる方が多いのでそういったところから前橋で働きたいと考えるようになりました。

○伊勢崎の市役所に就職なさることはお考えになりませんでしたか。

もちろん考えました。色々な思いもありましたし、実際働いてみて前橋で良かったなとすごく感じました。

○前橋で良かったと感じる理由は何でしょうか。

視野が広がるといいますか、前橋に入って市役所が大手町にあることや嶺公園のことも初めて知りましたし、人としての視野が広がるといいますか、世間が広がったという部分が良いところだと思います。人口も前橋市の方が多いですし、その分業務や任せられている仕事も多いと思います。中核市ということは、普通の市町村とは県庁から委託されている業務が変わってきますので。例えば廃棄物対策課は仕事の中核市でないと請け負わない仕事になっていますので、伊勢崎市ならば廃棄物対策課の仕事は群馬県の方の事務所で一括してやって頂いている仕事になりますので、そういった業務の幅も広がっているところで前橋で良かったかなと感じます。

○他の市町村が行っていない業務を中核市として前橋市役所が行っているのは廃棄物対策課だけなのですか。

廃棄物対策課だけではないです。他にもございます。

5. 就職前後を比べて変化したことをお教えてください。  
責任感を持つようになりました。窓口や電話対応など、私の発言が市役所 2000 人の代表の発言になってしまうので、発言については意識して一語一句噛み締めて話すようになりました。
6. 就職したての頃に苦労したことはどんなことですか。  
わからないということに苦労しました。私は大学生の頃にインターンシップなどに参加せず、みなさん(インタビュアー)のような体験がなかったので、大学 4 年間終わった後にいきなり 1 日過ぎたら社会人になってしまって、なにもわからず職場に入って挨拶して「さあどうしたらいいの？」という状態になってしまって、基本的なマナーもそうですし、仕事の進め方など本当にわからないことだらけでした。環境政策という仕事柄結構専門的になりますので、そういった部分も苦労しました。

○環境政策課に配属するということはランダムで担当の部署が決定するのですか。

そうです。希望調査があり第 1 と 2 希望くらいまでは書くところがありますが実際その通りにならないことが多いようですので、3 月の中旬までは私がどの所属になるのかもわかりませんでした。

○大山様のお話から、環境政策課は若い方が多いという風に伺いました。

そうですね。比較的 20 代の方が多いです。

○それは他の部署と比べると珍しいことなのですか。

部署によります。私が入る前は環境政策課の環境森林係も結構歳が上の方が多かったものでなんとも言えないです。

○歳が近いからこそ気が楽、などということもございますか。

皆さん親切なのでやりやすさを感じます。

7. 業務の中で楽しいと感じることは何でしょうか。

業務がスムーズに進んで、こなせているときです。ある程度一定のスケジュールでやることは決まっているのですが、その中で業務が変わって来ることが多いです。環境政策課は業務に自由があるといいますか、スケジュールがある中でも自由な部分があるので業務が上手くできているときは楽しいと感じます。例えば雷が当たって発電が止まってしまったときなど対応がしっかりできて発電がすんなりと復旧できたときなど楽しいと感じます。

○今までで 1 番難しかった仕事は何でしょうか。

昨年度、アカカミアリというヒアリの同種であるものが出た際には現場に行ってアリを採取したり歩き回って小さな顕微鏡を使って地面を見たりしたのですが、そういったときに上手く事態を収束できたときには大変でしたが、良かったと感じました。

○亀井様の仕事には実地的なものが多いのですか。

そうですね。外来種の担当もしているのでアカミガメやミドリガメを捕獲したりしたこともありました。

8. 業務の中で苦しいと感じることは何でしょうか。

担当している業務がうまく行かなかったときです。

○担当なさっている 3 つの業務の中でしたら 1 番難しいと感じるものはどちらでしょうか。

太陽光については自然災害などによって止まってしまうこともあるので難しいかなと思います。

○3年目にして結構色々な業務を担当なさっていらっしゃると思いますが、他の職員の方も同じなのですか。

みなさん色々な担当があって、他にも小水力発電ですとか、電気自動車の充電機などの維持管理なども担当していらっしゃる方がいます。

9. 業務においてやりがいを感じる時は何時ですか。

自然観察会などのイベントで市民の方々が楽しそうに先生の話聞いていらしたり、満足そうな顔をしているときにはやりがいを感じます。毎年野鳥の観察会をしているのですが、その時の市民の方が楽しそうですし、それを見ているのも楽しいです。

10. 環境政策課の職場の雰囲気をお教えてください。

環境としては和気あいあいとしているところはあると思います。電話や窓口対応で困っているときなどは手伝って問題を一緒に解決してくれるのですごく良い先輩ばかりでやりやすい職場だと思います。

○環境政策課が最初のご担当ということですが、最初がこの課で良かったと感じますか。

感じます。色々な業務が担当できますし、良い人ばかりですし教えてくれることもたくさんあるので聞きやすい職場です。窓口業務も現場もあるので最初の職場にして色々な業務ができるので良いと思います。

11. 仕事と生活の両立のコツについてお教えてください。

仕事と生活のメリハリをつけることです。私自身ジムに行くことが好きなので仕事終わりなどはジムに行って身体を動かすことでリフレッシュしてオン・オフをハッキリさせています。休日なるべく家から出るようにしてリフレッシュすることを心がけるようにしています。

12. 前橋市をより良くするため、これから取り組みたいことは何でしょうか。

省エネの補助金を担当してますので、家庭から出るCO2の排出量を減少させるため、補助金のメニューの充実をさせたいと考えます。環境は常に変わるものなので、新たな時代のニーズに合ったような補助金を検討していければいいかなと個人的には考えます。

○もし補助金のメニューを増やすとしたならどのようなものが考えられますか。  
蓄電池などがタイムリーなものかなと思います。

○ソーラーパネルはある程度の成果があったので廃止になったのですか？  
一定の成果があったので廃止になりました。

○では前橋はソーラーパネルの普及率が高いのですか。  
日照条件などからソーラーパネルをつければ儲かりやすい立地ですので高いと思います。

13. 学生時代にやっておくべきこととは何とお考えでしょうか。  
色々な経験をすることです。大学時代の4年間は自分で使える時間が多いと思いますので、勉強する時は勉強、遊ぶ時は遊んで時間を無駄にしないことが大切だと思います。旅行など時間があるからこそできることをやるのが1番かなと思います。仕事をすることになったら学生のうちの経験を活かせると思います。

○旅行の他にどのようなことをしたら良いとお考えですか。

私でしたら勉強はもっとしておきだだったと思います。資格などあれば良かったと思います。

△有利になるというわけではありませんが今は結構資格を持っている人が多いと感じます。

○持っている人が多いな、と感じる資格は何でしょうか。

△普通免許です。車がないと仕事にならないかなと思います。

○大学時代の学部はどちらでしたか。

経済学部経済学科でした。

○環境と経済は直接的には結び付かないように感じるのですが実際に何か役に立ったことはございますか。

授業で環境経済学というのがありまして、公害問題などを勉強したのでそのようなことが役に立ったかと感じます。

○これから経済を活かした部署を担当したい、などの希望はございますか。

折角勉強したので活かしたらとは感じますが、経済に限らず色々なことができればいいかなと思います。

○これからどの部署を担当したいなどはございますか。

今とは全く違う業務を試してみたいと感じます。

○環境政策課でご自身は担当なさっていませんが少しやってみたいなど感じる仕事はございますか。

温暖化の関係などは興味があります。私が全く携わっていない仕事なので、自身の知識に深めるためにも受け持ってみたいなど感じます。

○部署の異動はランダムで決まるということですが、担当業務は希望など出されるのですか。

△出しますが、希望が通る方もいますし通らない方もいます。

○亀井様の現在担当なさっている業務はやりたいと思って担当なさっているものなのですか。

やってからすごく興味を持つようになりました。仕事をするにつれ学ぶことが多いので担当業務をもててよかったと感じます。3年間同じ仕事を担当していますが毎年学ぶことが多いです。

○実際窓口などに生き物など持ち込む方は多いのですか。

多いのですが、実際に現地に行って採取しに行くことの方が多いです。

○固有種などのお名前をスラスラと仰っているように感じたのですが、覚えてらっしゃるのですか？

全部覚えているわけではないですが、頻繁に出てくるものは覚えます。また、生き物の先生にお会いする時などは専門的なものが多いので理解できるよう話に出そうなものは覚えるようにしています。

○どの業務でも興味を持って学ぶことが大切なのですね。

そうですね。

△あとはもう経験とノウハウですね。

○私(インタビュアー)は前橋と違い、所謂田舎の地域に住んでいるのですが、そういったところの役場などと前橋市役所様では仕事内容に違いはあるのでしょうか。

基本は同じだと思います。

△広く浅く、少人数での仕事になっていると思います。前橋などの中核市になると部署が大きくなってその業務に特化したものになると思いますが、やることは同じだと思います。

○公務員試験対策はいつ頃から始められましたか。

勉強は大学3年生の12月過ぎてからだと思いますが、やっていて遅いかなと思いました。できるのならできるだけ早くやっておけば良かったと感じました。

○採用試験での選考は人物重視と伺ったのですが、理想の人物像などございますか。

△面接官にもよりますが、質問に対して同じような受け答えが多いと聞いています。あまり奇抜なものも、とは思いますがそこからどうやって他の人と違いを出して行くかだと思います。

○面接の時意識したことはございますか。

姿勢を正しくしよう、また印象を良くしようとしたことです。集団面接の時なども言うことは他の方と被っていたので1番最初に喋るようにしていました。課長も仰っていましたが人と違うように見えるようにしていました。

○職員の方は地元の方が多いのですか。

△基本は地元の方ばかりですが中には遠方からの方もいらっしゃいます。

○何のアルバイトをなさっていらっしゃいましたか。

居酒屋で働いていました。4年間同じバイトをしてしまったのでできれば変えた方が  
良いと思います。

○バイトの経験はやはり役に立ちますか。

立ちます。貴重な、仕事ができる機会だと思います。

以上

## 感想

心理・人間文化コース2年 富樫季実

今回、取材インターンシップという形で普段お話を聞くことができない社会人の方のお話を実際に聞くことができるとても良い経験になったと感じています。一般の企業とは違う市役所の職員としての働き方やその業務の多様性、事前に調べただけでは分からなかった環境政策課様の詳しい業務内容など様々なお話をしていただきましたが、その中でも特に印象に残っているのは、大人だけでなく子供にもわかりやすく環境基本計画について学んでもらい協力するための活動です。前橋市役所の主な活動として、冷蔵庫を開ける回数を減らすなどの小さな取り組みをチェック式にした「まえばし環境家族」や、小学五年生を対象とした「環境教室」、「めだかの学校」などが挙げられますが、これらを実施することは子供たちの環境問題に対する理解を深め、実際に問題解決に取り組んでもらうきっかけになるだけでなく、家庭で子供から率先して行動することで大人へと輪が広がっていくことにもつながり、とても良いと思いました。また、私も「まえばし環境家族」や環境教室で配布されている冊子を見させていただきましたが、写真やイラストが使われていたり簡単な言葉で説明されていたりしてとても分かりやすくまとまっていました。大山様のお話では小学生だと環境基本計画の原文は難しいからとのことでしたが、原文よりも気構えずに読めて分かりやすく要約してあるこれらの冊子は中高生や環境問題への興味が薄い方にも環境問題の現状を知る入口としてとても良いのではないかと感じました。

環境問題の啓発や環境基本計画の推進は環境政策課様の主な仕事の一つですが、上記の活動についてお話をいただく中で、持続可能な社会を作っていかなければならないという環境問題解決に向けた取り組みはその性質上、これからの社会を担っていく子供たちがその問題について考え、協力することがとても重要であると考えていらっしゃることを感じました。

私は、取材インターンシップの意義はビジネスマナーを学び、実際に社会人の方に直接質問できるということにあると考えています。その点で、今回の取材では事前に用意した質問項目についてお話いただくだけでなく、その場で気になったことを掘り下げて聞くことができたことやお話の中で考え方を知ることができたのは良かったと思います。しかし、事前研修からの課題であったプレゼンやひとりあたり30分という時間に収まらず予定より長いお時間を頂いてしまったところは反省、改善しなくてはいけないと感じました。そして、今回学び、感じたことをこれからの学生生活や就職活動に活かしたいと思います。

## 感想

心理・人間文化コース2年 笛木茉悠

事前学習の前までは、「市役所の環境政策課」と聞いても具体的にどんな業務を行っているか想像ができませんでした。班の人たちと協力しながら調査を通してだんだんとイメージを掴んでいくことができました。ですが実際に市役所を訪れ、職員の方のお話を聞いてみなければ、きっとわからないままでこれから先も知ることがなかったであろう、環境政策課で行われている活動内容やそれについての目標としていることなど、詳しい部分をたくさん知ることができたと考えます。何より、社会に出て働いている方の話を伺うことで、より自分が約2年半後にどのように仕事をしているかイメージすることが以前に比べて楽になりました。私は今のところ公務員になることを目指しておりますが、ざっくりと公務員といっても色々な業務がありうまく自分の働いている姿が想像できなかったのも、職員の方の実際のご意見や、就職までの経緯などを聞くことができ本当に良い体験になったと思います。

また、大山様も亀井様もご自身でしっかりとしたお考えを持っていらっしゃるため大人の方の意見としてもとてもよいお話を聞くことができ、仕事に対する姿勢や、市役所ならではの前橋に対しての見方など大変参考になるものを教えて頂きました。お話の端々から、前橋をよりよくしていこうという姿勢や、市民の方への心遣いなどを感じることができ、自分が就職して働き始めた際の1つの指針のようなものになりました。これから事後学習で、取材で頂いた色々なものをもっと深めていくことで、更に得られるものがあるのではないかと期待しています。この経験を自分の就職活動やその先の実際に仕事に就いたときに活かせるようにしたいと考えます。

改善点としては、質問が思っていたよりもその場で思いついたものを多くしてしまって、その後のインタビューリストの内容と同じようなものをお聞きしてしまったことだと思います。その分物事を多角的な視点から教えて頂くことにも繋がったかとは思いますが、質問をする際にはすぐに口に出すのではなく、内容を吟味してから行いたいと考えました。